

# 神 楽 の 里 で 【中学年 4 - ( 5 )】

- 「地域」と結びつけて，価値に迫る取組み -

- ( 1 ) 主題名 郷土を大切にする心 [ 4 - ( 5 ) ] 関連項目 [ 4 - ( 6 ) ]  
 ( 2 ) ねらい 地域の行事や活動に興味を持ち，積極的にかかわろうとする態度を育てる。  
 ( 3 ) 資料名 「神楽の里で」  
 ( 4 ) 授業の展開例

	学 習 活 動	主な発問と児童の心の動き	留 意 点
導 入	1 郷土のいいところについて話し合う。	この町にはどんないいところがありますか。 ・自然が豊か。 ・神楽や祭などいろいろな行事がある。	社会科や総合的な学習の時間の内容を想起させる。
展 開	2 資料を読み，話し合う。	けんたは，神楽の鬼の役に決まったときどんな気持ちでいましたか。 ・うれしくてたまらない。 ・上手になろう。・うまくできるかな。 ・しっかり練習しよう。  おこられてばかりのけんたはどんな気持ちでいるでしょう。 ・練習がたいへん。 ・しかられるからつらい。 ・ちゃんとやっているのに，そんなに言わないで。  団長さんの話を聞きながら，けんたはどんなことを考えていたでしょう。 ・ぼくたちのことをそんなに思っていてくれたのか。 ・これまで以上にがんばろう。 ・「神楽」が若い者と年寄りを一つにすることができるなんてすごい。	けんたの気持ちに視点を当てて考えていく。 神楽を表面的な部分だけでとらえていることに気付かせる。  けんたの気持ちに共感させる。  けんたの気持ちが変わった理由を団長さんの言葉から考え，深めていくことで，価値に気付かせたい。
	3 地域の行事に参加したときの気持ちを振り返る。	地域のどんな行事や祭りに参加したことがありますか。 ・花田植え にぎやかで楽しい。 ・とんど祭り 一年の健康を願っている。	地域の思いまで踏み込みながら価値の一般化を図る。
終 末	4 教師の話を聞く。	・神楽の他にも地域に伝わるものがたくさんあるなあ。 ・ぼくもやってみようかなあ。 ・地域の人の思いがこめられているのだなあ。	現在，子どもたちと接点を持ちながら活動されている方の思いを伝えたい。

## 神楽の里で

チャンチキ  
神楽の楽をつけも  
つ楽器の一つ。

「トントントンチッチ、トントントンチッチ」

たいこ、チャンチキ、ふえのにぎやかな音に合わせて、神楽をまいます。けんたは、今、神楽のれんしゅうのまっさい中です。

けんたの町では、神楽がさかんです。けんたも子ども神楽団に入っています。けんたは、今年、やりたくてしかたがなかった鬼おにの役をすることになりました。けんたは、はりきって、れんしゅうを続けていました。

とつぜん、楽がくが止まりました。

「何回言うたらわかるんじゃあ。しゃきつとせんかい。」

神楽団の団長さんのきびしい声です。けんたは、ドキッとしました。

「けんた、そんなんじゃあ、今度の発表に間にあわんど。もつと大きくまえ。」



練習がはじまったところ、けんたは、鬼の役が楽しみで楽しみでしかたありませんでした。しかし、重い鬼のいしゅうをつけてまうのは、思っていたよりずっとたいへんです。動きにくく、すぐにあせがふきだしてきます。それなのに、何回も同じことをくり返すばかりだし、大きな声でしかられるのです。けんたは、れんしゅうがだんだんしんどくなってきました。それにれんしゅうで夜おそくまで起きているので、朝起きるのがつらいのです。

「神楽のれんしゅうたいへんだなあ。休もうかな。」

けんたは、そんなことを考え、すっきりしないまま、毎日ですごしていました。

そんなある日、学校で、「まちたんけん」に出かけました。神楽団の人に話を聞きに行くのです。神楽団では、団長さんの話を聞きました。

「古い歴史がある神楽じゃがのう、戦争がおわったころは、まう者がおらんで、神楽がでкинようになりかけたんじゃ。でもこのう、この町に神楽がなくなったらさびしいと思うてのう、仕事がすんでから集まって、ぎりぎりのところで何とか続けてきたんじゃ。そのうちに、町も神楽を見直してくれるようになって、若い者もこの町に残って、神楽を続けてくれるようになったんじゃ。」

団長さんの話は続きます。

「この年になるまで、わしが神楽を続けてこられたのは、若い者や子どもらのおかげなんじゃ。それぞれの成長を見るのが楽しみでのう。それに、若い者といっしょに神楽をしようたら、年をひろわんのじゃないか思うてのう。神楽は、若い者と年よりを一つにさせてくれるものなんで。」

けんたは、団長さんの話に引き込まれていました。そして、その夜、これまで以上にあせをかきながらも、目をかがやかせてれんしゅうに取り組むけんたのすがたがありました。

# 活用に生かすための実践報告

「神楽の里で」

## 1 主題の設定

中学年になってくると子どもたちの行動範囲は広がりをみせる。特に地域での生活が活発になるのに伴い、これまで以上に地域の行事や活動に興味を持つようになってくる。したがって、この時期に、地域の人々の生活、文化、伝統に親しむことを通して、自分のふるさとを愛する心情を育てる必要がある。

本資料では、「神楽」にこめられた人々の願いを感じとり、これを受け継ごうとする主人公の姿を中心に描いた。主人公の気持ちにそって考えることで、子どもたちが自分の住む郷土に関心を持ち、その一員として生活できるようにしたい。

## 2 指導過程の工夫

社会科や総合的な学習の時間での自分たちの住む郷土の生活や文化、伝統行事などについて調べる学習を生かして、授業との関連をはかるようにした。

地域で行事や祭りが行われているとき、意図的に話題にし、子どもたちの意識を高めたい。

自分たちが住む郷土に伝わる行事等の写真やビデオなどを用いて、郷土の様子や行事が具体的にイメージできるようにしたい。

## 3 発問の工夫

主人公の気持ちにそって発問を展開した。中心発問では、「団長さんの言葉を聞きな

がらどんなことを考えていたか。」と問うことで、子どもたちの多様な考えをひきだすことをねらった。

## 4 児童の反応（授業後の感想）

- ・ 神楽団の人の気持ちを初めて聞いて、ぼくたちのことをよく考えていてくれるのだなあと思った。
- ・ 地域にあるたくさんの行事や祭りには、みんな地域の人の思いがあるのだなあ。
- ・ （子ども神楽に入っている子どもが）今度の練習で、気持ちを聞いてみたいなあ。
- ・ （子ども神楽に入っている子どもが）しっかり練習をしないといけないと思った。

## 5 実践者からの一言

実践した地域は、結びつきも強く、子どもたちは、小さい頃から自然に地域の行事や祭りに参加しており、いろいろな地域の行事や祭りが「当たり前」のことになっている。その中で、さらにもう一步踏み込んで、それらの意義に気付かせようと考え実践した。

心のノートP84～85の「わたしのふるさとを心に残そう」を利用することも考えられる。

可能であれば、地域の方を招いて、地域に対する気持ちを直接話していただくと効果があると思う。

（美土里小学校 二井岡直文）